



# HOA BINH レポート

**JVPF** 内閣府認証 特定非営利活動法人 日本ベトナム平和友好連絡会議 (日越友好連)  
NPO Japan Vietnam Peace and Friendship Promotion Council

〒162-0801 東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405 TEL 03-3268-4387 FAX 03-3268-6079  
c/o. IFCC.#405, TsujiBLD, 333, Yamabuki-cho, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan TEL(81)3-3268-4387/FAX(81)3-3268-6079  
http://ifcc1985.com jvccpf@rmail.plala.or.jp

51号

2021年7月

会費/正会員:(個人)5,000円(団体)50,000円 口座名/日本ベトナム平和友好連絡会議  
◎郵便振替 00110-2-188872 ◎三菱東京UFJ銀行・江戸川橋支店(普通)1215225  
◎ゆうちょ銀行・〇一九(ゼロイチキョウ)店(当座)0188872

第14回総会開催

## コロナ禍のなか、活動を工夫し次の歩みへ

### 第14回総会が開催されました

5月15日、JVPF第27回、28回理事会及び第14回通常総会を東京で開催しました。コロナ感染拡大による「非常事態宣言」の中、関東を中心に出席者を得て事業報告・計画、決算・予算など全ての議案を承認しました。



### 2020年度事業報告(要約・抜粋)

#### 【組織活動】

1. 20周年事業として諸事業を計画しましたが、COVID-19禍によって人的交流を伴う活動はその大半が執行できませんでした。基本的活動にかかわることについては、以下のように進めてきました。

①認定NPOへの移行を具体化—については認定のための「パブリックテスト」の「相対値基準・原則」での申請を選択し、2021年度中の諸条件整備と申請準備を進めてきました。(「相対値基準・原則」では実績判定期間における経常収入金額のうちに寄附金等収入金額の占める割合が20%以上であること)

②~④ 略

⑤枯葉剤被害者「仁愛の家」寄贈活動—第13回総会で「枯葉剤被害者支援のためのベトナムアンサンブルチャリティーコンサート2020の中止と被害者支援活動の履行について」の特別決議を行いカンパを呼びかけ、ハザン省で2軒の「仁愛の家」寄贈を実施しました。

2. 組織の強化発展のための活動

①認定NPOへの移行に着手してきましたが、事務所問題が残ったままになっています。

②会員拡大は世代交代などでの会員減で進んでいません。

③会報『ホアビン』の年2回発行、会員連絡報の2回発行、HPの更新等の広報活動を行いました。常任理事会は3回開催してきました。

会報『ホアビン』50号(2021年1月発行)は20周年記念号としてベトナムの友好組織や日本の友誼団体から祝辞を兼ねた活動報告をいただき掲載しました。

3. JVPF宮崎支部は昨年の台風被害でベトナム人技能実習生が死亡したことを受けての支援活動で県在住ベトナム人の方々との絆を深め、宮崎県日本・ベトナム友好協会結成を準備しています。

JVPF鹿児島県支部はラムドン省で少数民族出身学生奨学金支援を実施してきました。「JVPF大分」が結成されました。

4. 略

#### 【事業】

1. 教育支援事業(1)—少数民族出身学生奨学金支援

①ハザン省で少数民族中学生を対象に支援事業を実施。これは個人サポーターの他、宮崎JVPF支部、かがわJVPF支部、JVPF岩手などが中心になって進めています。

②ラムドン省の少数民族寄宿高校でJVPF鹿児島支部が奨学金を贈呈しました。

③クアンチ省では友誼団体の広島JVPFが少数民族高校生に奨学金を贈呈しました。

④「時遊人」はトゥエンクアン省で、「ふえみんベトナムプロジェクト」はダナン市で学生への支援事業を進めています。

3. 国際協力事業(1)—枯葉剤被害者支援活動

②埼玉JVPFはクアン省で進めていた枯葉剤被害者のための「仁愛の家」建設・寄贈の目標40軒を達成しました。

2~7 略

#### 本号の内容

- 第14回総会報告 1P
- 枯葉剤被害者支援活動/ハザン省、クアンナム省 2P
- 少数民族出身学生奨学金支援/ハザン省・ラムドン省 5P
- 活動のたより/JVPF宮崎、広島HVPF 7P
- ベトナム共産党大会開かる(概要) 8P ※資料別添
- 掲示板 8P

**2021 年度事業計画 (要約・抜粋)**

**【組織活動】**

1. 略
2. 組織の強化発展のための活動
  - ① 認定NPOへの移行に着手します。「相対値基準・原則」での年度内申請を目指します。また認定NPO移行に伴う事務局管理体制強化をはかります。
  - ②～③ 略
- 3～4 略

**【事業】**

1. 教育支援事業(1)－少数民族出身学生奨学金支援
  - ① ハザン省での少数民族寄宿中学校への奨学金支援事業の6期を検討していきます。
  - ② JVPF鹿兒島県支部のラムドン省少数民族寄宿高校の奨学金支援活動をサポートします。
  - ③ 広島JVPFのクアンチ省少数民族学生への奨学金支援活動をサポートします。
2. 教育支援活動－村山記念JVPF日本語学校
  - ① 当校の設立趣旨に沿い、活動をサポートしていきます。そのため常設の学校再開に向けて努力していきます。
3. 国際支援事業－枯葉剤被害者のための活動
  - ① JVPF設立の柱である支援活動を調査・訪問として続けていきます。
  - ② さいたまJVPFの「仁愛の家」寄贈活動をサポートしていきます。
  - ③ 枯葉剤被害者貧困家庭への「仁愛の家」寄贈活動はコンサー

**ご報告** 「ベトナム・アンサンプルチャリティーコンサート2021秋」は コロナ禍収束の見通しが立たず中止することになりました。2020 年度事業をスライドし準備してきましたが、当該の地元の方々には 2 年に渡りご足労いただき、心よりお詫び申し上げます。(2021 年 5 月 25 日)

- ト事業の成り行きによって検討することになります。
- ④ 枯葉剤被害者追跡記録DVD「トアとトゥアン」の上映活動を進めていきます。
  - 4～5 略
  6. 国際交流事業(2)－文化・スポーツ交流
    - ① 略
    - ② 2023 年の日越外交関係樹立 50 周年に関係した事業の準備を進めます。
  - 7 略

<b>2020年度計算書</b>	
1. 経常利益	4,560,004
2. 経常費用	3,656,084
3. 当期経常増減額	903,920
4. 前期繰越金	155,580
5. 過年度損益修正額	－66,340
6. 次期繰越金	1,059,500
<b>2021年度予算書</b>	
1. 経常利益	2,417,500
2. 経常費用	2,960,000
3. 当期経常増減額	－542,500
4. 前期繰越金	1,059,500

## 枯葉剤被害者貧困家庭への「仁愛の家」寄贈が進む

● **ハザン省** 枯葉剤被害者支援のための「ベトナム民族アンサンプルチャリティーコンサート 2020」は中止となりましたが、枯葉剤被害者支援カンパを呼び掛け1,350,000円の基金を作ることが出来ました。去る1月30日、JVPFハノイ事務所の Ngoc さんと JVPF のベトナム在の会員 Nhah さん(ニャチャン大学教授)2 人がハザンを訪問し「仁愛の家(2軒)」寄贈のための支援金3億ドン(約140万円)を渡してきました。



上：贈呈後、ハザン外務局リー・チ・ラン局長(中)とJVPFハノイ事務所のゴックさん(左)、JVPFのベトナム会員ハンさん(右、ニャチャン大学教授)(2021/1/29)  
 左：「仁愛の家」2021年度2軒分3億ドンの贈呈受領証  
 下：2020年1月寄贈した1軒目の家で、完成成った「仁愛の家」寄贈式が行われた。



**資料**

合意書(原文は越語)

日本ベトナム平和友好連絡会議がハザン省で実施する枯れ葉剤被害の困難家庭支援のための「仁愛の家」建築援助資金に関する合意

「仁愛の家」を寄贈するための以下の内容について関係責任者は合意する。

- 1- A 側(スポンサー)：日本ベトナム平和友好連絡会議(JVPF)
  - ハザン省、Bac Quang 郡と Vi Xuyen 郡の枯れ葉剤被害貧困家庭のために、援助資金300,000,000VNDをもって「仁愛の家」2軒建てる。
  - ハザン省の外務局代表へ援助資金を渡し、直接事業を実施する。
- 2- B 側：ハザン省外務局
  - 受領した援助資金で郡の労働社会保障部と共同して「仁愛の家」を建築する。(1)4レベル家を建てる。(2)ベッド、机、椅子、布団、食器など家庭用の設備をサポートする。
  - 家を建てるためのA側の管理と責任を代表する。
  - 1月毎1回、写真でスポンサーに進捗を報告する。
  - 家を建てる計画書に基づき援助資金を使用し事業を実施する。もし不当な用途があった場合はスポンサーに援助資金を返却することを確認する。

2021年1月29日に署名された合意書は2部で、A側1部とB側1部保管し、それぞれ同等の法的価値を持つ。

- A 側代表  
 日本ベトナム平和友好連絡会議  
 B 側代表  
 ハザン省外務局

北部ハザン省で 2 軒目と 3 軒目の「仁愛の家」

# 住民たちも支えて新家屋建築へ

★ハザン省外務局と約束していた今回の 2 軒は、2020 年 1 月訪問時に調査した寄贈予定先が、家屋損壊状況が著しく緊急性がありハザン省政府の手でケアされたため、直接の枯葉剤被害に該当しない家庭も含まれて

いますが、戦争被害の貧困家庭への支援も含め要請されたため、“心”を共有した支援活動として事業を進めました。

★この度、ハザン省外務局より、2021 年 6 月現在の建築の進捗状況が届きましたので、ご報告いたします。

## 2 軒目

- ・Đặng Thị Lầu, Ms (1948 年生まれ。民族:ダオ 族、住所:ハザン省バククアン郡ナムムオン村。
- ・夫のバン・ヴァン・ナムさんは 1947 年生まれ、1979 年 2 月に軍に入隊し、ハ・トゥエン省(現在のハザン)で戦争に加わり、除隊後 2017 年に病気で死亡。
- ・3 人の息子。長男も 1984 年に国境警備隊に参加し、除隊後、労働事故で足を骨折し不自由で苦しむ。他の子供も非常に貧しい。



以前の家屋



村人も労力提供でサポート



新築の家屋

- ・プロジェクトは 80 m<sup>2</sup>の使用可能面積で完了:1 リビングルーム、2 ベッドルーム、キッチン、トイレの完備。基本設備の建設と購入にかかる総費用:1 億 7700 万 VND。うち、JVPF は 1 億 5000 万 VND を支援。残りは家族の負担と村人のボランティア労働による貢献。
- ・以後、外務局は地元行政当局と調整して、塗装作業の完了、必要な機器の購入、庭と池の改修、植栽物と家畜の選定(自活のための野菜、鶏など)と提供をおこなう。

## 3 軒目

- ・Hoang Ngoc Cam; 1954 年生まれ。タイ族。住所:ハザン省 ViXuyen 郡 ViXuyen 町 LangVang 村。
- ・1971 年、入隊し戦場 B(南部)へ。1972 年、中部クアンチの戦場へ。1973 年 1 月、除隊し故郷へ。帰国後、結婚し、子どもは 1987 年生まれの末息子のホアン・ゴック・トゥイを含む 6 人(息子 5 人、娘 1 人)。
- ・有毒化学物質の影響を受け神経異常の末っ子のトゥイとその子供の世話をしなければならず貧困。



以前の家屋



ハザン省外務局、村人も参加して起工式



新築の家屋

- ・プロジェクトは、1 リビングルーム、2 ベッドルームを含む 65 m<sup>2</sup>の使用可能面積で完了。基本的な備品の建設と購入の総費用は 1 億 6200 万 VND (キッチンとトイレの推定建設費を含む)。そのうち、JVPF は 1 億 5000 万 VND をサポート。残りは家族の負担と村人のボランティア労働による貢献。

中部クアンナム省で枯葉剤被害貧困家庭へ 40 軒

# 愛と団結と思いやりの[仁愛の家]

平松 伴子(さいたま日越友好連 副会長)

1961 年 8 月 10 日から 10 年間、アメリカ軍はベトナム国内 26000 の村村に 8000 万リットルの Agent Orange/Dioxin を撒いた。

その結果、ベトナム全土で 480 万人がダイオキシンを浴び、300 万人以上の人々が障害者となった。一家全滅を含め、死者の数さえ今もわからぬと、村人から私は聞いた。

ダイオキシンの被害者の障害は日本人には想像できない。重度の障害の治療法もない。そのダイオキシンを除草剤に混入してアメリカ軍に売ったのは日本人であることを、私達日本人は決して忘れてはならない。更に、アメリカ政府がダイオキシンを除草剤に混ぜることを日本企業に依頼したことはないと裁判で断言し、ベトナムへの補償は一切しないことが決まった。日本人はそのことも知らなければならない。

私達埼玉 JVPF が[仁愛の家]の建設支援をしているクアンナム省はダイオキシン障害者が最も多い所である。その数は 35000 人以上。その中の 5000 人以上は直接ダイオキシンを浴びた人。2000 人以上はその人の子供・孫・曾孫である。

働けない障害者の日々の生活は苦しい。特に住宅は、雨が降れ

ば家中がズブズブになってしまう。家族みんなで蚊帳をかぶって雨が止むのを待つしかないのが現状である。

[仁愛の家]第 1 号を建設した 2012 年、クアンナム省との話し合いの場で「ダイオキシンの被害者に最も必要なものは何ですか?」と私が質問した時、「それは家です」とシン副会長が即座に答えた。「私達は小さな団体ですが、ベトナムの皆さんから、もう結構ですと言われるまで、頑張ります」と私が言いましたら、「もう結構ですなんて、絶対に言いません」とシン副会長が強く言った。

私達は元副大統領のグエン・ティ・ビン女史と友好連合の皆さんとは常に話し合いを続けてきた。[仁愛の家]の建設で真にダイオキシン被害者の皆さんが幸せになるように、また家を作ったために借金に苦しむことがないように、話し合ってきた。

40 軒目まで完成した[仁愛の家]は、ビン女史とクアンナムの人々の団結、多くの日本人の愛、加えて VAVA・人民委員会・赤十字・青年同盟・女性同盟・村の役員・親類縁者たちの深い思いやりの結実だと私は信じている。

実は、50 軒目を目指して 10 軒分の建設支援金はすでに私の所に日本全国の皆さんから送られてきている。更に、ダイオキシン被害者の経済基盤を強めるために「牛牧場」を造る支援金も準備してある。支援金を出してくださった日本の皆さんには心から感謝している。あのクアンナムの静かな林の中に「牛牧場」ができることを楽しみにしている。

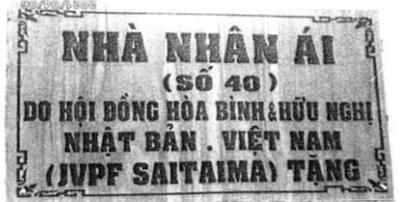
JVPF の全国の皆さん、一緒にクアンナムに行ってみませんか。お誘います。

また、そんな場面を『ベトナムレポート』でご報告したい。拙著『ベトナムレポート』の自費出版も第 9 号まで日本全国とクアンナム友好連合にお送りしてきた。早く第 10 号を出版したいと思っている。

記 2021 年 6 月 12 日

・2012 年にベトナム中部クアンナム省で始まった枯葉剤被害者貧困家庭への『仁愛の家』寄贈活動は足掛け 10 年となり、都合 40 軒の『仁愛の家』が届けられました。埼玉 JVPF 平松伴子副会長が中心となって推進してこられた本プロジェクトの支援総額は 13,920,000 円となる。

・この他に 2021 年には被害者の貧困家庭自活支援として「牛の飼育プロジェクト」支援が 550,000 円で実施されている。(記:編集子)



寄贈された『仁愛の家』には 1 軒目から 40 軒目迄、家の入口にプレートが飾られている



上: 2012 年に実施された 1 軒目の『仁愛の家』、ズイスエン郡のブアン・クオンさん宅。前列左から 3 人目がクオンさん、その右がお姉さん。前列の着席右端は筆者。

下: コロナ禍で訪問は叶わなかったが、クアンナム省友好委員会と協力し 2020 年に完成した 40 軒目のダイロック郡のゴ・チュオンさん宅。友好委員会や村の役員たちと写るチュオンさん(写真中央)。



中部ダナンにはベトナム戦争時、海兵隊を含む大規模な米軍基地があった。その南に位置するクアンナム省ではベトナム側民兵の抵抗も激しく、大量の枯葉剤投下があった。

教育支援プロジェクト

# コロナ禍でも、少数民族出身学生たちを奨学・支援

**ハザン省**で少数民族出身中学生奨学金贈呈が去る 1 月 30 日ハザン省ヴィスエン郡少数民族寄宿中学校で行われ、二期生 4 年目=10 人、三期生 3 年目=10 人、四期生 2 年目 10 人、五期生 1 年目 10 人の都合 40 人に実施されました。

この贈呈式も JVPF ハノイ事務所の Ngoc さんと JVPF のベトナム会員 Nhah さん(ニャチャン大学教授)2 人が参加し奨学金贈呈をしてきました。JVPF 宮崎支部は一期生 5 人が卒業したことを受け、新規の五期生 5 人の学生への奨学金支援を継続することになりました。

コロナ禍で、移動に制約があるなか、ニャチャン大学のハン先生(奨学金サポーターでもあります)に贈呈式に参加いただき JVPF を代表して挨拶をしていただきました。この度、ハン先生から手紙が届きましたので皆様にお届けします。

## ハザン省少数民族出身学生への奨学金贈呈に参加して

親愛なる

日本-ベトナム平和友好連絡会議 様



### 【Tran Thi My Hanh さんの紹介】

Hanh さんはカインホア省の省都にある国立ニャチャン大学の食品技術学部教授。  
2014-2017 年、研究のため東京海洋科学技術大学大学院に來日していた際、JVPF の活動に共鳴されハザン省ヴィスエン郡少数民族学生寄宿中学校で開始した奨学金事業にサポーターとして参画し、現在、第五期生のサポーターも。  
日本滞在中の 2017 年 4 月には村山富市 JVPF 会長と会うため大分を訪れた。  
帰国後は専門分野の研究の他、日本との科学技術シンポジウム参加やクリーンアップワールドの会長など務められている。

初めてハザンに行き、ハザン省のヴィスエン郡少数民族寄宿中学校の 40 人の学生に奨学金を贈呈してきました。贈呈式での交流を通して、この高地の人々の苦しみや、学生が学校に行くため



学生たちは贈呈式に合わせて、「辛丑（かのと・うし）の春を迎える民俗フェア」を準備していた。下は 40 人の奨学生たち（ハザン省ヴィスエン郡 2021/1/30）



の生活環境、経済的困難を理解できました。ここでは学生たちの努力と勤勉さ、教師と保護者の熱意と誠実さをみる事ができます。

covid-19 禍が世界中に影響を与えている今、私は奨学金贈呈式で JVPF を代表して気持ちを届けるスピーチをする機会をいただいたことを光栄に思いました。

無事にニャチャンに戻った後、ハザンのヴィスエンの学校の奨学生ノン・ドゥイ・ホア君からお礼のメールを受け取りました。彼がメールに書いた気持ちに感動しました。今後も JVPF と共に、より多くの学生を支援し、カウンセリングやキャリアガイダンスを継続していく必要があると思っています。

わたしも十分健康に留意しながら、学生たちが夢に向かって羽ばたくことに少しでも貢献できたらと思い、彼らが社会に役立つ人々になって、高地や少数民族という不利な状況から経済発展とより良い社会を実現していくよう援助していきます。

私の活動が、これまで私を助けていただいたすべての人に少しでもお返しになれば幸いです。次の世代を援助できることを楽しみにしています。

最後に、JVPF の皆様、学校の先生方、保護者の皆様、学生の皆さん、そしてご家族の健康、平和、そして新年のご多幸を祈念いたします。

2021 年のテトを迎えて

Tran Thi My Hanh,  
ニャチャン大学

課外活動で民族刺繍をする学生たち



卒業した第五期奨学生(ハザン・ヴィスエン郡)たちの写真が届きました。



左：担任の先生を囲む卒業した四年生 A クラス。5 人の奨学生たちは本人の写真に名前を記載  
上：担任の先生を囲む卒業した四年生 B クラス。5 人の奨学生たちは本人の写真に名前を記載

ラムドン省ダラット市で JVPF 鹿児島支部による 2020 年度ラムドン省少数民族高校での奨学金支援贈呈を実施。テト(2月2日)前の贈呈を予定していましたがコロナ禍の再発で学校が急遽休校になったため、テト明けの 3 月 13 日(土)に実施され、JVPF ホーチミン事務所のルオンさん(村山日本語学校校長)が奨学金を贈呈しました。今回も 1 年生=10 人、2 年生=10 人、3 年生=10 人の都合 30 人に奨学金が届けられました。このラムドン省での少数民族出身高校生への奨学金支援事業は 2013 年から開始され今回が 8 年目で、今期の新 1 年生 10 人が最終期奨学生となります。1 人のサポーターで 1 人の学生を支援としてきましたので都合 80 人がサポーターとなっただき、活動の裾野として役割も果たしていました。



上、下：2020 年度の奨学金贈呈式の模様 (2021/3/13)

サポーター80人で、延べ80人の学生に気持ちを届けてきました

今期の奨学生が卒業する 2023 年5月に通算 10 年間の本事業



に区切りをつけることになりました。

優雅な学校の行まい。建物の変遷

- ・ラムドン省寄宿少数民族高校は、1988 年 12 月、ラムドン省の人民委員会の決定で正式に設立されました。以前は、少数民族の若者のための学校がラムドン省 Di Linh 市で 1982 年から開かれていましたが、ダラット市に寄宿民族高校が設立された後、移管されました。
- ・ダラットはダオバイ国王一族や富裕層の避暑地として有名で、1935 年、植民地の宗主国フランスはノートルダム教会に指示し修道院を開設しました。この修道院は、その後、保育園・小学校などを付設し、フランスの植民地政府の行政要員(フランス人とベトナム人)の子供のための女子高校として変遷してきました。1975 年の解放戦争終了後、その施設の大半は分解されましたが、13 年経て本館跡がラムドン省の寄宿制の少数民族高校になりました。
- ・この建物は、フランスのプログラムを教えた最初の高校の豊かな歴史に加えて、古典的要素と現代的要素で建築の美しさを融合させており、建造後あまり改造されていないので、今も当時の建築様式を保っています。



・ラムドン省の省都ダラットは第二次大戦末期の 1944 年から終戦まで、日本軍の南方軍司令部がおかれていた。ダラットは現在ベトナム人の観光地としても有名だがフランス植民地時代、彼らの避暑地として開発された。この地域もベトナム戦争時ホーチミンルートの南部への出口の一つであったため枯葉剤が大量に投下された。  
・少数民族構成はキン族、コホ族(英語版)、ヌン族、バーナー族などでクメール系が多いといわれる。  
・ダラット・ワインやダラット野菜は有名だ。



**「宮崎県日本・ベトナム友好協会」設立**

全国・九州の中で遅れていた、ベトナムと宮崎県をつなぐ友好団体が、3 度目の日程調整で本年 4 月 11 日に設立されました。当日は、役員予定者(理事 10 人、監事 2 人)等と、オブザーバーとして県庁の担当課(3 人)、県国際交流協会と宮崎市国際交流協会の代表の参加の中、任意団体としての「宮崎県日本・ベトナム友好協会」(略称、MJVA 以下、「友好協会」)を設立すること、設立趣旨、定款、事業計画、予算の案が全会一致で承認され、役員を選出、理事長・副理事長の選出、5 月 23 日に設立記念式典を開催する、5 月 2~3 日予定の宮崎県ベトナム人交流会(以下、「交流会」)主催のサッカー大会を後援することを確認し、無事終わりました。

JVPF 宮崎から 2 人、交流会から 2 人(ベトナム人女性)、民間から 3 人の計 7 人で第 1 回事務局会議を開いたのが昨年 10 月 4 日、それからわずか 6 月余という急ピッチの作業でした。しかしこの間、役員就任のお願いにも、保革問わず、皆さん快く引き受けていただきとてもありがたかったです。最初から、ベトナム人の若い女性 2 人が事務局メンバーに加わったのも順調に運んだ原因かもしれません。おかげで在福岡総領事館との連絡もスムーズに運びました(2 人は理事に就任)。  
しかし、重要なのはこれからで、どういう考え方で具体的課題に取り組み(現在、在留ベトナム人に対するアンケート調査を実施中)、定款にある目的を達成していくのかが問われてきます。

**残念だった設立記念式典の延期**

5 月 23 日の設立記念式典に向けては、在福岡総領事館の総領事と知事の出席内諾、両者による開会直前の 1 時間会談も整い、県議会議長、行政団体、経済団体、農林漁業団体等への直接訪問も終え、日本側約 40 人、ベトナム側は若者中心に約 40 人の参加を予定しました。ベトナム側は、女性を中心に pop ダンスと伝統舞踊を披露すると張り切り、日本側は地元で活躍する若き女性シンガーで対抗。10 人余のベトナム人女性は、日曜日に宮崎市に集まり練習に励みました。半日みっちりの練習。でも、日曜日に県内から集まるのも大変です。全員が日曜日が休日とは限らず、事前に会社と相談しなければなりません。交通費、昼食代等、日本人とは違う金銭感覚で苦労もあります。5 月 9 日の日曜日も 17 時まで懸命に練習しました。と、その夕刻、県知事が、コロナに関し、宮崎県独自の緊急事態宣言を発しました。5 月 23 日までの日程でした。記念式典は延期。若い女性たちの一途な練習を思うと申し訳ない気持です。



記念式典に向け、踊りの練習にも余念がなかったが...

**盛り上がったサッカー大会**

宮崎県の在留外国人は2020年末で 7,738 人(法務省在留外国人統計)、全国 40 位、内、ベトナム人は 2,569 人です(2位は中国人 1,269 人)。しかし、在留ベトナム人がお互いを知ってい



るわけではありません。ベトナムでの故郷はそれぞれに違います。交流会は、同じベトナム人が一同に集い、日本語を使う必要もなく、思う存分ストレスを発散、楽しい時間を共有して欲しいことを願って、ベトナムで人気のあるサッカー大会を企画しました。コロナ下で、サッカー場確保に苦労し、延期、延期でしたが、宮崎市の協力で確保、5 月 2~3 日の日程で念願の大会が開催されました。友好協会は後援団体として、側面から支援してきました。

初日は、県内各地から 8 チーム、応援の女性も含め約 160 人が参加、友好協会の理事長も来賓挨拶、終日大いに盛り上がりました。ところが、宮崎市が県独自の「コロナ感染急増圏域」となったと、その日の午後、市から緊急連絡があり、主将会議を開催、3 日の優勝大会は延期と決めました。「延期」というところに彼らの思いが込められていました(優勝大会は 6 月 20 日に開催)。

**一歩前進**

**地元新聞のベトナム特集シリーズが大きな支えに**

本年 1 月 1 日、県内をカバーする地元新聞は、「Xin chao みやぎぎ 外国人労働者は今」「第 1 部・椎葉から」と題し、技能実習制度に焦点を当てたベトナム特集記事を 1 面トップで大々的に報じました。第 1 部は 6 回で終了。その後、第 2 部(6 回)、インタビュー編(3 人)、第 3 部(7 回)、第 4 部(6 回)と続き、6 月 21 日の総集編で終わります。この間、県内各地で働くベトナム人技能実習生の実名と顔写真を載せたインタビュー記事を別途数回報道する等、県内の読者はベトナムに大きな関心を持ったのではないかと考えています。私た

ちもとても参考になりました。友好協会が現場の実態をここまで深く知ることは、現体制ではまだ無理です。新聞記者ならではの情報確保であり、共有できるものがないか検討していきます。



**今後の課題**

2,500 人を超す県内の在留ベトナム人を個別企業ごとに見ると、厳然たる事実があります。それは、この若者たちの存在無しには、その企業・零細企業の存続はもはや不可能という現実です。でも、この現実日本全体でも同様であり、世界的にも、特に G7 と呼ばれる国でも同じことです。この大きなうねりの中で、私たちは、どんな考え方で彼・彼女たちと向き合っていけばいいのか、突きつけられています。それは畢竟、現体制の中で、国際化とは具体的に何なのか?を問い続けることでもありと考えています。定款の目的に掲げた、「日本とベトナムとの国際交流を発展させる」運動の中でそのことを追求してまいります。

(記:JVPF 宮崎 川畑 匡)



**求められた「コロナ禍」における新たな交流スタイル**

JVPF副会長の赤木達男さんが専務理事に就いている広島ベトナム平和友好協会(HVPF)の第 13 回

総会が6月20日に開催された。総会では“ベトナムがく”しみん講座、クアンチ省での高校生奨学金、クアンチ省『台風被害』義援金、少数民族村への「医療器具支援」、平和友好訪問団、「テトを祝う会」などについて、「コロナ禍」における新たな交流スタイルを工夫しながら進めることが協議された。

なお、2020年12月1日、日本国政府より「令和2年度外務大臣表彰」を受賞したことも報告された。

**枯れ葉剤投下 60 年にあたって**

2021 年度活動として「“ベトナムがく”しみん講座」のなかで「枯れ葉剤60年～改めて問う！ エージェントオレンジ～」を開催することになった。

ー1961年8月10日、ベトナムに初めて枯れ葉剤がまかれて60年。1971年までの10年間にわたり猛毒ダイ オキシンを含むエージェントオレンジ(枯れ葉剤)が散布され、今なお深刻な被害が続いています。

ベトナム政府は2004年、8月10日を「枯れ葉剤被害者の日」(祭

日)に制定し被害継承と被害者支援。世界各国や日本国内でも8月10日に枯れ葉剤被害者支援が取り組まれています。「枯れ葉剤60年」を迎えて今年、初めてのイベントとして「講座」に位置づけて行う一総会議案より

このイベントは「花はどこへいった」上映の他、同映画の坂田雅子監督、グエン・ドクさん(Web 参加)の参加を得てのトーク&シンポジウムが行われる予定。

特別ゲストとして、Web 参加するグエン・ドクさんの生誕地は中部のコントゥム省で、1961年8月10日、初めて枯れ葉剤がまかれた地域。兄のベトさんは2007年に26歳で亡くなったが、ドクさんは亡くなった兄の面影を胸に枯れ葉剤被害児者救援の慈善活動を続けている。

- ・日 時 2021年8月10日(火)～8月16日(月)
- ・会 場 東広島芸術文化ホール「くらら」小ホール、ギャラリー
- ※詳細は、広島ベトナム平和友好協会まで。  
090-1010-0472(赤木達男)



- ・ベトナム共産党第 13 回全国大会へ祝辞。1 月 25 日から 2 月 1 日開催され、ベトナム友好委員会全国連合からの案内に基づき JVPF はベトナム共産党宛に祝辞を送りました。
- ・これに対し、ベトナム友好委員会全国連合から「大会成功報告と祝辞への御礼」が届きました。大会は書記長にグエン・フ・チョン氏を選出。同氏は継続して第三期目となります。
- ・正式「大会概況報告」全文の日本語訳は別添。

**ベトナム共産党第 13 回全国大会の概況報告**

ベトナム共産党第 13 回全国大会が 2021 年 1 月 25 日から 2 月 1 日に、首都ハノイにおいて開催されました。

大会では、「清廉で強力な党と強靱な政治システムを作り上げるために建設と改正を強化し、国の発展への向上心を呼びこみ、時代の力と結合して民族の大団結の意志と力を最大限発揮させる。ドイモイ(刷新)を引き継ぎ全面・同時代を推進する。本国を建設し強固に防衛して平和で安定的な環境を確保する。もって 21 世紀半ばまでにベトナムを社会主義志向の先進国にするために奮闘する」政治報告の主題に高い賛同が寄せられました。

大会ではマルクス・レーニン主義とホー・チミン思想の堅持が再確認されました。これらは創造的に適用され、ベトナムの現実に適合するよう発展してきました。すなわち、社会主義精神に密接に適合した民族独立目標への奮闘、全面的・同時的なドイモイの前進継続と内包的かつ外延的な国際統合を先導し積極的に推進し続ける、新時代における我が国の急速で持続的な発展を目指すという点においてです。

第 13 回大会で採択された文章における重要なハイライトは、新時代におけるビジョンと繁栄する国家への発展目標を明確にしたことです。大会では 2025 年を目途にした国家の発展方向とともに、2030 年、2045 年を画した方向とビジョンが打ち出されました。

具体的には「南部開放、南北再統一 50 周年の 2025 年までに、ベトナムは現代的産業化を追求し、下位中所得国からは脱した



発展途上国になる。我が党創立 100 周年の 2030 年までに、ベトナムは現代産業を基軸とした上位中所得の発展途上国となる。我が国創立 100 周年の 2045 年までに、ベトナムは高所得の先進国となる」ことです。

大会において党は、独立、自主、平和、友好、協力、発展の外交政策を一貫して展開し続けることを決定しました。これは、「外交関係を多様かつ多国間に広げる。国際社会においてベトナムは友人、信頼できるパートナー、責任ある構成員たり続ける。国連憲章と国際法、そして平等、互恵の根本原則を基礎においた主権国家としての地位と国益を確保する。内包的かつ外延的そして全面的な国際統合を先導し、積極的に進めること」を期しています。

大会は、中央委員会(第 13 期)を選出しました。1 月 31 日の第 1 回中央委員会総会で政治局員、書記局員、また党中央委員会監査委員会が選出されました。グエン・フー・チェン同志は信任厚く、ベトナム共産党第 13 期中央委員会書記長に再選されました。 ※(「ベトナム共産党第 13 回大会全国成果の概況報告」ベトナム共産党対外関係委員会議長 Hoang Binh Quan(署名)の要約): 文責「ホアンビン」編集部

**【揭示板】**

- 今期は、活動計画はあるものの中央・各支部とも揭示すべき具体化に至っていません。COVID-19 禍の下での宮崎や広島の活動を参考にしていきたいと思えます。
- 2023 年日越外交関係樹立 50 周年の記念事業を想定し諸準備をしていきます。